

プライバシーポリシーへの同意とフォントの関係性分析

Analysis of Relations between Consent to Privacy Policy and Font Styles

高口鉄平, 土屋望実
Teppei Koguchi, Nozomi Tuchiya

静岡大学
t-koguchi@inf.shizuoka.ac.jp

概要

本分析では、インターネットサービス等において個人情報の収集方法や利用目的を定めたプライバシーポリシーについて、そのフォントの変化によって、利用者の信頼感や安心感などの印象に影響を与えるかについて検討した。分析を通じて、プライバシーポリシーへの向き合い方や個人意識などの利用者の属性にこだわることで、フォントがプライバシーポリシーへの印象に有効にはたらく場合があるということが明らかになった。

キーワード：パーソナルデータ

本分析の目的は、インターネットサービス等において個人情報の収集方法や利用目的を定めたプライバシーポリシーについて、そのフォントの変化によって、利用者の信頼感や安心感などの印象に影響を与えるかについて明らかにすることにある。

分析では、フォントが広告や商品に与える影響に関する先行研究を踏まえ、HG 丸ゴシック M-PRO・HG 教科書体・HG 創英角ポップ体・MS ゴシック・MS 明朝の5種類のフォントを取り上げ、比較することとした。

分析にあたって、Web アンケート調査を実施した。調査は NTT コムリサーチによるもので、調査期間は2019年1月18日、1,105人の回答を得た。調査では、まず、取り上げたフォントごとに回答者を5つのセグメントに割り振りそれぞれのフォントで書かれたプライバシーポリシーを見せ、不安感や信頼感といった印象の程度を調査した。その後、印象の差に独立性があるか検定を行った。

また、回答者にプライバシーポリシーを読ませたのち、プライバシーポリシーの内容に関する問題を解かせ、その正答率から理解度を調査した。

さらに、プライバシーポリシーから想起される企業像を調査するため、企業イメージを表現する形容詞を回答者に提示し、SD法によりフォントと企業イメージの関係性を分析した。

分析の結果、プライバシーポリシーとフォントに関して以下の知見を得た。

- HG 創英角ポップ体はプライバシーポリシーへの信頼感を下げる。
- MS ゴシックは個人情報の利用への抵抗感を増加させる傾向にある。加えて、女性はHG 丸ゴシック M-PROにも同様の傾向がみられる。
- プライバシーポリシーを入念に読むような、慎重な利用者を対象とするサイトは、MS 明朝を使用しないほうが良い。
- 個人情報の利用への不安感を小さくするためには、個人属性ごとに不安感を低減するフォントが異なる。
- 事業者は、プライバシーポリシーを理解させたいのならば、HG 創英角ポップ体が有効である。ただし、理解した結果として不信感を抱きサイト利用をやめる場合もあるので、事業戦略としてあえて理解させないとするならば、HG 丸ゴシック M-PROを使用することが望ましい。

分析を通じて、プライバシーポリシーへの向き合い方や個人意識などの利用者の属性にこだわることで、フォントがプライバシーポリシーへの印象に有効にはたらく場合があるということが明らかになった。利用者はプライバシーポリシーの内容に関わらずフォントによって印象が変わってしまう可能性があることから、冷静に自分のパーソナルデータがどう利用されるか確認してサイト利用を検討する必要性がある。

文献

- [1] 池田マイケル(2008)「SD法を用いた本文用欧文書体の印象分析」『デザイン学研究』Vol.54, No.5, pp.11-18
- [2] 石川重遠・生田目美紀(1999)「日本語フォントのイメージ調査のための書体分類」『日本デザイン学会研究発表大会概要集』Vol.46, pp58-59
- [3] 高口鉄平(2015)『パーソナルデータの経済分析』勁草書房
- [4] 小松文子・高木大資・古閑範章・松本勉(2011)「情報セキュリティ対策を要請する説得メッセージによる態度変容の調査と実験」『情報処理学会論文誌』Vol.52, No.9, pp.2526-2536
- [5] 高崎晴夫(2018)『プライバシーの経済学』勁草書房
- [6] 日景奈津子・カールハウザー・村山優子(2007)「情報セキュ

- リティ技術に対する安心感の構造に関する統計的検討
『情報処理学会』 Vol.48, No.9, pp.3193-3203
- [7] 松永崇秀・山口哲敬・高橋健一・川村尚生・菅原一孔(2016)
「利用者による個人情報保護手法の決定を可能とするフ
レームワークの提案」『情報処理学会論文誌』 Vol.57, No.9,
pp.2058-2063
- [8] 向井詩緒子(2013)「和文書体フォントの印象に関する因子
構造の探索的検討と分類」『日本デザイン学会研究発表大
会概要集』 Vol.60, p.221
- [9] 山本太郎・関良明・高橋克巳(2013)「インターネット利用
における不安の対象とその要因の調査結果に関する一考
察」『マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウ
ム 2013 論文集』 pp.1233-1241
- [10] 山本太郎・千葉直子・間形文彦・高橋克巳・関谷直也・中村
功・小笠原盛浩・橋元良明(2009a)「インターネット利用の
安心・不安調査と不安発生モデルの構築」『日本社会情報
学会第 24 回全国大会研究発表論文集』 pp.54-59
- [11] 山本太郎・千葉直子・間形文彦・高橋克巳・関谷直也・中村
功・小笠原盛浩・橋元良明(2009b)「インターネットにおけ
る不安発生のモデル化とその検証について」『コンピュー
タセキュリティシンポジウム 2009 (CSS2009) 論文集』
pp.1-6
- [12] 山本太郎・千葉直子・増田広樹・高橋克巳・平田真一・小笠
原盛浩・関谷直也・中村功・橋元良明(2011)「インターネッ
トにおける不安からみた安心の模索」『研究報告コンピュ
ータセキュリティ (CSEC)』 Vol.54, No.8, pp.1-7